

令和3年度第3回岩手県企業局経営評価委員会 議事録

令和4年2月8日(火) 14:00 ~ 16:00

ウェブ会議

次 第

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 議 事

【審議事項】

- (1) 令和3年度の評価(実績見込)について
- (2) その他

- 4 閉 会

委員長	一関工業高等専門学校 副校長	あかし なおゆき 明石 尚之	
委 員	岩手県立大学総合政策学部 准教授	いづみ けいこ 泉 桂子	
〃	いわて生活協同組合 常務理事	かねこ せいこ 金子 成子	
〃	早稲田大学水循環システム研究所 招聘研究員	なみかわ すずむ 濤川 進	
〃	盛岡ガス株式会社 常務取締役総務部長	まつかわ けん 松川 顕	
企業局	局長	さとう まなぶ 佐藤 学	
〃	次長兼経営総務室長	やえがし ひろふみ 八重樫 浩文	
〃	技師長	ふじわら きよと 藤原 清人	
〃 (経営総務室)	特命参事兼管理課長	すずき みつまさ 鈴木 光将	
〃	予算経理担当課長	ふるかわ あつし 古川 敦	
〃 (業務課)	総括課長	やまや のりひこ 山谷 紀彦	
〃	事業担当課長	こがわ けんいち 古川 健一	
〃	電気課長	たかはし ひろし 高橋 浩	
〃	土木・施設担当課長	たがや せいこ 田家 清子	
〃	発電所再開発推進課長	いしかわ ゆきひろ 石川 幸洋	
〃 (施設総合管理所)	施設総合管理所長	むらかみ としひろ 村上 敏弘	
〃 (県南施設管理所)	県南施設管理所長	すがわら かつひろ 菅原 克浩	
事務局	経営総務室 経営企画課長	いとう くにひこ 伊藤 邦彦	
〃	経営総務室 経営企画担当 主任主査	おぼら じょう 小原 穰	
〃	経営総務室 経営企画担当 技師	きくち こうすけ 菊地 弘祐	
〃	経営総務室 管理担当 特命課長	ほそかわ ひろもと 細川 晋基	

(委員50音順 敬称略)

(発言者)

(発言内容)

【 1 開 会 】

事務局
(小原) 定刻でございますので、ただいまから、令和3年度第3回岩手県企業局経営評価委員会を開催いたします。

本日、暫時、進行役を務めさせていただきます事務局の小原でございます。どうぞよろしくお願いたします。

この「岩手県企業局経営評価委員会」は、基本的に公開として開催することとしており、ホームページ等でも掲載しているところではございますが、新型コロナウイルス感染症の感染状況もでございますので、会議の傍聴席は設けず、会議終了後に議事録等をホームページに公開することといたします。

それでは、お手元の次第により、進行して参りたいと存じます。

最初に、企業局長の佐藤より御挨拶申し上げます。

【 2 挨拶 】

佐藤局長 企業局長の佐藤でございます。本日はお忙しい中、御出席いただき大変ありがとうございます。

さて、本日の経営評価委員会は、今年度最後の委員会ということで、可能であれば委員の皆様にご直接お目にかかりまして、御意見等頂戴したいところでしたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、前回の委員会と同様に、リモートによる開催とさせていただきます。

今年度を振り返りますと、電気事業においては、昨年7月に築川発電所の営業運転を開始し、大きなトラブル等もなく順調に運転しております。また、稲庭高原風力発電所については、営業運転開始に向けて工事を進めております。また、非FIT水力発電所の次期売電契約の締結については、公募型プロポーザルを実施し、無事契約に至ったところでございます。

工業用水道事業においては、令和5年4月の一部給水開始に向けて、新浄水場の整備を進めております。引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響やユーザー企業の実使用水量の動向に注視してまいります。

本日の議題は『令和3年度の評価（実績見込）』としております。

委員の皆様におかれましては、様々な視点から御審議賜り、忌憚のない御意見をいただきますよう、よろしくお願いたします。

簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

事務局
(小原) それでは議事に入りたくと存じます。以降の議事進行は、明石委員長にお願したいと思います。

【 3 議 事 】

明石委員長 委員長の明石です。よろしくお願いいたします。それでは、議事進行を務めさせていただきます。

まず、本日の内容ですが、令和3年度の評価（実績見込）について審議を行います。事務局から配布されているタイムスケジュールに沿って進めてまいりますので、議事進行に御協力をお願いします。

説明は、電気事業、工業用水道事業、組織力向上と地域貢献に分け、説明・質疑応答を行います。

それでは『電気事業』について説明をお願いします。

(1) 令和3年度の評価（実績見込）について（電気事業）

経営総務室 伊藤経営企画課長が下記資料に基づき、説明を行った。

資料1-1	令和3年度 評価の総括（実績見込）
資料1-2	令和3年度 経営評価総括表（実績見込）
参考資料2	令和3年度 供給停止の原因とその対応一覧

明石委員長 それでは、質疑応答に入りますが、オンライン方式での進め方について、確認させていただきます。委員の皆様のカメラがオンになっておりますので、発言を希望される場合は、手を上げてお知らせ願います。

ただ今の説明について、御質問、御意見はございませんか。

濤川委員 仙人発電所について、入札不調により耐震化に遅れが生じるとのことですが、この原因について具体的に説明いただけますでしょうか。

菅原県南施設管理所長 耐震化工事につきましては、入札に参加する業者がいなかったことにより、これをふまえ、県内に対象範囲を拡大して再公告を行ったところであります。先日、無事契約先の決定に至ったとのことで、今年度中の契約締結を見込んでおります。

泉委員 参考資料2の4ページ、入畑発電所の保護継電器の経年劣化について、何年使用されてきた機器であったのか、また、同様の機器は他発電所でも使用されているのでしょうか。

高橋電気課長 保護継電器は約30年間使用していたものです。先週（2/4）、代替品の手配が完了となり、運転を再開しております。同様の型式の保護継電器を調査したところ、他発電所で使用している箇所はございません。

松川委員

半導体不足による影響が本資料だけでも3件記載がありますが、今後この影響は拡大する見通しがあるのか、その場合、対策等についてどのように考えているのでしょうか。

また、資料1-1の1ページ、「集中監視制御システムの操作室を別建屋に増設しました。」の記載について、当該項目はリスク対策、特に感染対策について有効であると思います。弊社も監視制御システムが設置されていますが、（施設総合管理所の集中監視制御システムは）結構な規模感があるのか、その点をお聞きします。

また、新技術の導入について、是非進めて頂きたいと思います。今後、人間では出来ないことも新しい技術で対応可能かと思っておりますので、推進していただきたいと思っております。

山谷業務課総括課長

半導体不足による影響ですが、企業局で既に契約している工事については、メーカー等より聞き取りを行っております。現在、半導体不足による影響を受ける工事は、本資料記載の工事が全てと認識しております。

今後発注予定の工事につきまして、例えば基板上に半導体に乗っている制御盤などについては、影響を受ける可能性があると考えておりますので、10か年計画で予定されている工事については、早期の発注に見直すなど、検討してまいりたいと考えております。

集中監視制御システムについては、施設総合管理所で24時間監視を行っている当直員がおりますが、当直員で罹患者が発生した場合を想定し増設したものでございます。（施設総合管理所に）隣接する建物、かつて職員寮として使用していた建物がございます。この利活用も含めて、別建屋の一室に端末の一部を増設することで、当直員が（建物間を）移動すれば同じ遠隔制御が可能となるよう整備しております。

職員寮については、使用していない期間があったため、エアコンの設置や床の整備なども行い、監視体制を強化しているところでございます。

保守業務（維持管理）等の効率化に関するIoT技術等の導入については、来年度も継続して取り組み、令和5・6年度を目途に、ドローンなどのIoT技術を最大限活用し、効率的な保守管理に努めていきたいと考えております。

佐藤局長

新技術の活用については、業務課総括課長から業務の効率化についての観点で御説明したところですが、職員の安全の確保、職員の作業に係る負担の軽減といった面からも進めてまいりたいと考えているものです。

金子委員 参考資料2の4ページ、入畑発電所の停止について、保護継電器の経年劣化についてですが、これだけ長く発電停止はこれまで無かったのではないかと思います。実績値は目標値を超えているとのことですが、これによる資料1-1の供給電力量への影響はどうだったのか、また、機械関係は耐用年数が決まっているものと思いますが、耐用年数との関係における点検や交換はどのようにされていたのでしょうか。

高橋電気課長 保護継電器が古く、交換する代替品の手配に時間を要したため、長期間の停止となりました。停止中の（供給電力量などの）実績については、冬期ということもあり平均流入量が少なく、その間の損失は少ない状況となっておりますが、数十万から百万円程度の損失と試算しております。金額の詳細については、後程ご報告いたします。

耐用年数については、一般的な電気設備が22年ですが、これを目安に設備更新を計画しています。

菅原県南施設管理所長 耐用年数について補足いたします。入畑発電所については運転開始から30年間保護継電器を使用してきたところですが、数年先に発電所の再開を予定しており、本来であればもう少し早く交換すべきであったと反省しております。他発電所（北ノ又発電所）においても、（保護継電器を）同様に約30年間使用してきた状況でございます。

故障復旧に時間を要したことについて、先ほど説明がありましたが、古い機械であったことから同じ機械が手に入らないということ、また、互換性のある後継機も、ちょうど入畑発電所の保護継電器が故障する前に製造中止となり、入手が困難となったことがあります。

その後、入手可能な保護継電器について調査を行ったところ、国内でキャンセルとなった保護継電器が偶然手に入り、復旧が出来たという状況でございます。これが無ければ2・3か月先まで発電不可の状態であったものと認識しております。

金子委員 説明については承知しましたが、意図とすれば、入畑発電所の問題だけではなく、（他発電所にも）同様に機器類の耐用年数があると思いますので、今回の事例を教訓に、今回のように長期間の発電停止とならないよう、点検等の対応を確実に行うべきではないかという意見です。

山谷業務課総括課長 入畑発電所については、数年後の再開を計画していたため、様子を見てきたということもございます。点検については、通常の年次点検の中で保護継電器に関する試験も行うなど、正常に動作することは確認していたものではあります。最終的な原因が経年劣化とのメーカー見解が示されたことは想定外だった面もあります。

他の発電所については、委員御指摘のとおり、以降同様の事象が再発しないよう、努めて参りたいと思います。

明石委員長 部品に耐用年数がありますので、それに合わせた更新計画を立てるべきだと思いますので、今回の事案を教訓に、再検討をお願いしたいと思います。

な経常収支比率が「B」であると、各取組が全部よかったということにはならないと思ったところですが、結局今回の達成度が「B」となる理由は、「②適切な収入の確保」のうち例えば「ア 契約水量の維持・増量に向けた取組」や「イ 改良費に対する補助金や公営企業債の要望」が「a」であることや、業務の効率化のために経費削減にも確実に取り組んだが、予定の水量がいかなくて収支は達成できなかったなど、いずれ全ての取組状況が「a」であるのに達成度が「B」であることに違和感があるものです。

古川事業担当 経常収支比率をリンクさせて評価する考えもあると思いますが、当該達成度の評価の設定方法が、費用面のみを評価項目としていることもあり、収入面が追い付いていないため経常収支比率が若干足りなかったものと考えております。一方で、収支均衡は達成しておりますので、（経常収支比率の目標値である）107 という数字が若干高かった面もあります。収入については、当方で想定していた（契約水量の）伸びが想定どおり伸びていない現状があります。

澗川委員 新浄水場の建設について、資料 1-2、10 ページには「令和 4 年度の機器据付・試験調整に向け」とありますが、半導体不足の影響は新浄水場建設には影響はないのでしょうか。

古川事業担当 現時点では半導体不足による影響はないと見込んでおります。

明石委員長 そのほか、御質問、御意見等はございますか。
なければ、『組織力向上と地域貢献』について説明をお願いします。

(3) 令和 3 年度の評価（実績見込）について（組織力向上と地域貢献）
経営総務室 伊藤経営企画課長が下記資料に基づき、説明を行った。

資料 1-1 令和 3 年度 評価の総括（実績見込）

資料 1-2 令和 3 年度 経営評価総括表（実績見込）

明石委員長 ただ今の説明につきまして、御質問、御意見等はございますか。

松川委員 資料 1-2 の 13 ページ、「企業局働き方ロードマップ」について、もう少し具体的に説明いただけますか。

また、「取組内容の進捗状況」のうち 1 項目（職場の働きやすさ向上）について「b」となっていますが、この理由について教えてください。

また、企業局における男性の育休の取得状況について教えてくださいませんか。

鈴木特命参事 企業局働き方ロードマップについてですが、企業局では昨年 2 月に働き方改革推進会議を設置し、その中でどのように進めていくか、ハード・ソフトの面から様々検討してまいりました。その検討結果をふまえ、今後企業局として取り組んでいく働き方改革の項目を決定しました。それが企業局働き方

ロードマップとなります。

具体的には、事務効率化推進のため、ペーパーレス会議の実践、在宅勤務が可能となるテレワークの推進、一人一台パソコンの配布を実施しております。また、会議の効率化のための会議のルールを設け運用しております。

また、電子決裁・文書管理のシステム化や書類押印の廃止、業務の効率化としてIoTの推進など、様々な取組を進める内容も企業局働き方ロードマップで取りまとめております。

職場の働きやすさ向上については、働き方改革を推進する上で、企業局職員にアンケートを実施しております。アンケート結果を基に働き方改革を進めていくこととしておりますが、アンケート結果の満足度が70%であり、資料1-2の12ページには参考指標として「79%」（令和元年度結果）とあります。今回のアンケート結果が若干下回ったため、評価が「b」となったものであります。

男性の育児休暇について、4名のうち3名が育児休暇を取得しており、75%が取得しております。知事部局と比較すると母数が少ないですが、取得率としては高いと認識しております。

松川委員

男性の育児休暇取得率が75%ということで非常に高い数字であると思います。満足度が70%であることも、私の職場ではそこまでいかないと思いますので、働きやすい職場を目指していらっしゃるということがよく分かりました。

弊社もここ1年で男性2名が育児休暇を取得しており（取得率100%）、1名は1か月、もう1名は4か月取得しており、1か月取得した者からとても良かった旨、話があったところです。子育てがいかに大変かを奥様と一緒に共有できたと話していましたし、職場内でもお互い様という関係が生まれていました。（弊社の業務内容が）現場作業が大半であるため、（育児休暇を取得すると）残りの者に負担がかかるものですが、そこはお互い様の関係性から次に繋がっていったこともありましたので、企業局においても、男性の育児休暇取得についてはこの調子で進めて頂きたいと思っております。

濤川委員

組織力向上とリスク管理の観点から、特にも新型コロナウイルス感染症対策が肝心かと思いますが、万が一運転管理している方が感染した場合の代替手段について、BCP計画で定められているかお聞きします。

鈴木特命参事
兼管理課長

新型コロナウイルス感染症対策についてですが、発電事業及び工業用水道事業に関係する職員については、早期のワクチン接種を実施し感染防止に努めております。また、代替職員については、これまで発電事業を経験した職員をリストアップし有事の際に備えるなど、体制を整えております。

泉委員

先般、農林水産部林業振興課より、岩手県「木づかい宣言」に登録した事業者はいわて復興パワーに申し込める話を聞いたところです。このような取組を、是非前向きにご検討いただけましたらと思います。地域のために汗をかいている事業者を守り抜く取組を継続頂けたらと思います。

伊藤経営企画
課長 いわて復興パワーによる電気料金の割引やCO₂フリー電力の供給の取組について、令和4年2月より、令和4・5年度分の募集を開始しております。震災復興やふるさと振興に資する事業者への利用が拡大するよう、引き続き取り組んでまいります。

松川委員 いわて復興パワーといわて復興パワー水力プレミアムについて、これらは同時に適用可能とのことで、これからCO₂フリーの取組はこれからさらに需要が高まってくるのではないかと思います。

弊社も含めた岩手の都市ガス4社が、自社使用分だけですがカーボンニュートラルLNGを導入します。エネルギーに関わるものとしては、お客様に薦めるにはまず自分たちからだと考えており、その動きの中で、脱炭素について岩手県の中でも取り組もうとするお客様が少しずつ出てきていると感じているところです。よって、是非、いわて復興パワーだけではなく、水力プレミアムについても継続して推進頂きたいと思います。

弊社も今般、いわて復興パワーに申込みしたところであり、あわせて現在、水力プレミアムへの申込みも検討しているところです。水力プレミアムによる経費増をいわて復興パワーによる割引で抑制することを考えておりますが、いずれ、ガスも電気もCO₂フリーであることを企業としてアピールしていきたいと考えております。

伊藤経営企画
課長 水力プレミアムについては、(付加価値分の料金単価は)小売電気事業者の設定する金額に依るところで、企業局としては(水力プレミアム申込者のうち希望する者へ)認証盾を発行しているところであります。

令和4年2月1日にホームページで公開いたしました。水力プレミアムの付加価値分の料金が1.1円/kWhと価格が変更となっておりますので、より利用しやすくなったものと認識しております。また、いわて復興パワーによる電気料金の割引については、更なる対象事業者拡大を目標に東北電力と現在協議を進めております。

鈴木特命参事
兼管理課長 先ほどの新型コロナウイルス感染症対策に関する補足ですが、在宅勤務や分散勤務について、施設総合管理所で集中監視制御システムを増設した旨お話ししたところですが、別建屋にて(施設総合管理所の)職員の半分程度が分散勤務しております。岩手緊急事態宣言が発令された昨年(2020年)の8～9月に在宅勤務・分散勤務を実施しましたが、その際の出勤率が約50%であったため、約2分の1の割合で在宅勤務・分散勤務を実施したこととなります。

佐藤局長 盛岡ガス様におかれましてはいわて復興パワーにお申込みいただき、誠にありがとうございます。

委員御指摘の非化石価値について、企業局では水力・風力・太陽光といずれも再生可能エネルギー由来の電気を発電しております。非化石価値により価値を見出して頂ける企業様は、今後社会の趨勢として増加傾向になるだろ

うと我々も認識しておりますところ、企業局で発電している電気における非化石価値については、盛岡ガス様などや非化石価値に価値を見出される地元の企業様を始め、岩手県民の方々など、まずは地元へ価値を還元するという方向が良いのではないかと考えております。

松川委員

今の局長の話に関連して、脱炭素化に向けて県内の動きも変わるのかなと思っております。先日（岩手県の）令和4年度の当初予算案が発表されましたが、その際、達増知事から水素の利活用推進に関する話がありました。グリーン社会の実現に向け、いわて水素モビリティ関連で、水素ステーションを2基作るということや燃料電池自動車購入の補助をされるとのことです。大手都市ガス会社ですと自社で水素ステーションを作るところはたくさんあるのですが、岩手県では今回が初めてとのこと。

一番期待されるのは企業局のCO₂フリー電気で作られる水素であると思います。価格的に難しい側面もあると思いますが、今回の知事の話聞いて、増々脱炭素に向けた動きが進んでいると感じました。

明石委員長

ほかにございませんか。

それでは、「(1) 令和3年度の評価（実績見込）について」の審議を終わります。委員の皆様から出された御意見を参考に、今後の取組を進めて頂きたいと思っております。

明石委員長

それでは、「(2) その他」に移ります。委員の皆様から何かございませんか。全体を通してでも構いませんが、何かございませんか。

高橋電気課長

先ほどお話のあった、入畑発電所故障停止による損害額について報告いたします。電力量では160万kWh、金額に換算して約300万円でございます。

明石委員長

そのほか、御質問、御意見等はございますか。

最後に、事務局から連絡事項等、何かありますか。

事務局
(菊地)

本日の審議に関する議事録は、後日各委員に照会の上、ホームページで公開いたしますのでご了承ください。

次回委員会は、例年どおり7月に開催予定としておりますが、開催方法などの詳細は、後日正式に御連絡します。

また、3月までに、来年度の経営評価委員会の日程調整を行わせていただきますと思いますので、よろしく願いいたします。

明石委員長

これで、事務局が用意した議事は全てとなります。議事進行に御協力いただき、ありがとうございました。

残りの進行は、事務局にお返ししたいと思います。

事務局
（小原）

本日は長時間にわたって御審議をいただき、貴重な御意見、御助言を賜り誠にありがとうございました。

閉会にあたり、佐藤企業局長から御礼を申し上げます。

佐藤局長

本日は、長時間にわたり、熱心にご審議いただきまして、ありがとうございました。

本日の議題については令和3年度の評価ということで御指導・御意見等頂戴したところです。評価についての考え方や、今年度の取組の中で反省すべきことを教訓とした今後の取り組み方について、などいろいろと御意見を頂戴しました。委員の皆様におかれましては、今後の企業局の業務の推進に御指導・御協力をよろしくお願いしたいと思います。

今年度も皆様から頂戴した御意見を踏まえながら、残りわずかではございますが取組を進めてまいりたいと思います。本日は大変ありがとうございました。

事務局
（小原）

これをもちまして令和3年度第3回岩手県企業局経営評価委員会を終了いたします。

本日はありがとうございました。